

令和4年度 第1回地球温暖化対策専門部会 議事要旨

日時：令和4年5月23日（月）14:10～16:30

会場：北とぴあ14階 スカイホール

【出席者】

<委員>

部会長 村上 公哉 委員
小川 芳樹 委員 田中 充 委員 小山 文大 委員
小松原 和恵 委員 越野 充博 委員 伊藤 あすか 委員
土岐 有紀子 委員 檜垣 昌子 委員 竹内 桃菜 委員
鈴木 陽太 委員 宮本 侑吾 委員

※村上委員、田中委員、伊藤委員はリモート参加

<事務局>（一部リモート参加）

雲出 生活環境部長 佐野 生活環境部環境課長
西山 総務部営繕課長 坂本 まちづくり部まちづくり推進課長
土屋 地域振興部産業振興課長 馬場 教育振興部学校改築施設管理課長
越部 総務部副参事（新庁舎担当） 宇野 危機管理室副参事（地域防災計画担当）
保坂 総務部副参事（設備・保全担当） 伊藤 地域振興部副参事（区民施設担当）
環境課環境政策係
（欠席）江田 政策経営部副参事（基本構想担当）

【次第】

- 1 開 会
- 2 議 事
（1）施策検討（区の実施重点施策・個別施策）
- 3 閉 会

【傍聴人】 4名

【配布資料】

- 次第
- 委員名簿
- 資料1（仮）北区環境基本計画2023骨子案 第4章
- 参考資料 掲載事業案一覧
- 令和4年第1回北区定例会陳情資料（当日配布資料）

【議事要旨】

1. 開 会

2 議 事

議事（1）施策検討について（区の実組む重点施策・個別施策）

○事務局

〈事務連絡〉

- ・部会長が急遽遅参、かつ、リモート参加となったことから、環境審議会会長 小川委員の進行によることとする。

〈資料説明〉

- ・資料1（仮）北区環境基本計画2023骨子案 第4章

〈説明要旨〉

- ・各基本施策においてどのような個別の施策に取り組むべきか議論。
- ・議論に当たり、個別施策案を例示（資料1及び参考資料）
- ・最終的には、本日の議論を踏まえ、区が重点的に取り組むべき事業を抽出し、第5章を新設して掲載予定。
- ・温室効果ガスの削減量の部門別の数値を更新した。
- ・北区議会令和4年第1回定例会に出された陳情について、本部会に関連する事項として報告。

〈質疑応答〉

○部会長代理

- ・事務局より基本目標1について概ねご説明があった。基本目標5や他に関係するところで、本部会で特に議論が必要な部分について、まずは事務局から簡単にご紹介頂けるか。

○事務局

- ・本部会が地球温暖化専門部会であることを鑑み、次第に本部会でご議論頂きたい基本施策を示させて頂いた。基本目標1（1）（2）は全般的に、基本目標2（3）は気候変動適応対策という視点から防災の面も含めご意見賜りたい。基本目標3（5）は資源循環型システムの構築によってどのように温暖化対策に寄与できるかといった趣旨。基本目標4（8）は2050年までにゼロカーボンを実現するには、排出量を完全なゼロにするのは現実的に難しい為、いかに吸収量を増やしていけるか、区として緑をどれだけ創出していけるかが課題となるため。基本目標5（9）（10）（11）はすべての基本目標に対し横断的に関連する事項であり、区単独では施策の推進は難しく、区全体として取り組むために区民、事業者にどうやって情報発信や考え方の共有ができるかご意見賜りたい。

○部会長代理

- ・参考資料についても、資料としての意図をご説明頂きたい。

○事務局

- ・資料1として昨年度末作成した骨子案のなかに、個別施策を盛り込む形で提示した。また、個別施策を全体的に俯瞰して見られるように一覧としてまとめたものを参考資料とした。現時点では、環境課の案の段階となっており、本日ご意見頂いた部分を区の関係部署と調整を行い、ぜひ事業として進めていければと思っている。

○部会長代理

- ・昨年度は骨子案としてとりまとめたところ。本日は、より具体的に個別施策に取り組むべきかを議論していく。実現可能かどうかはおいて、区としての施策を網羅的に示されている。重点的なもの、今回掲載され

ていない事業についても提案頂ければ。基本目標ごとにご意見頂きたい。まずは、基本目標1について。

○委員

- ・随所に分散型のエネルギーシステム、脱炭素だけでなく災害に備えるためのコージェネレーションシステムの記載があり、しっかりと情報共有できていると感じた。また、事業者としては、カーボンニュートラルに向けて、(都市ガスの)CO₂リサイクル(CCU)を実現しながら供給していこうと考えているが、2030年に100%の実現は難しいところ。脱炭素実現に向けて、まずは省エネを進める必要があるため、ベースの考え方としてしっかり盛り込んで頂いているので、より推進して頂きたい。
- ・具体的な事業として、省エネ道場がある。事業者としても小学生向け省エネ講座に協力させていただく。こういったまちでの意識づくりのアプローチは大事だと考えており、ご家庭などへ広がっていくベースになるし、環境教育を小さいうちから定着させていくことができるので、ぜひ推進してほしい。

○事務局

- ・省エネ道場について。ここ数年、新型コロナの影響もあり、なかなか予定どおり進んでいなかった。中止になると反響としては参加しなかったのに残念だというような意見を頂き、人気のある事業。実際に参加されたお子さんは、いきいきと活動されている。この事業については、区としても引き続き実施、あるいは充実させていきたいと思う。

○委員

- ・環境意識のベースづくりを共に着実に進めて頂きたい。

○部会長代理

- ・省エネルギーの推進については、北区の住民や事業者の努力によってエネルギー消費量を減らし、結果として温室効果ガスを減らした成果として現れてくるところのため、力を入れて活動するべきところ。
- ・46ページの家庭部門の「家庭における省エネ診断」について、削減ポテンシャルが大きく見込まれているが、省エネ診断によって何をして、具体的にどんな行動が行われるから削減につながるのか、がわからない。その下には「省エネ機器」や「省エネ建築」の記載があり、これが省エネ診断の結果をうけての行動であるならば、ダブルカウントになってしまうのではないか。

○事務局

- ・家庭における省エネ診断は、基本的に家庭におけるソフト対策を意味する。具体的には、エアコンや冷蔵庫の温度を季節に合わせて適切に調整する等といった手軽にできる取組みのもの。実際に省エネ診断を受けられた方の家庭の削減率が平均で1割から2割減るという試算があるのでそちらを採用した。省エネ建築等のハード系の取組みと重複しないようになっている。ソフト系の取組みはこまごまと多数あるため、まとめて「省エネ診断」のところに入れさせて頂いた。

○部会長代理

- ・省エネ対策はぜひ力を入れて頂きたい。

○委員

- ・対策強化分について、先ほど説明であったようなすでに取組まれている分については、現状趨勢分として差し引かれているという認識でよいか。

○事務局

- ・ご認識のとおり。46ページの表でいうと「導入済み+導入予定の比率」と記載したものがBaUとして見ており、それを加味して目標値を算出している。

○委員

- ・41ページあたりに、現状の一人当たりもしくは世帯人数当たりのエネルギー消費量や排出量、電力使用量

等と、今後の削減目標を示してもらえると、現状把握ができるとともに区民が具体的にどれくらい頑張るべきかがわかるため、省エネ行動に寄与できると思う。

- ・ 42 ページと、本日配布の陳情資料④について、「60%以上削減目標」が意見付きで採択されている。現在の50%がポテンシャルを鑑みたうえでの目標設定と理解しているが、I P C Cの報告をみると62%以上削減しないとスタートラインにも立てないということなので、お示しいただいている削減量をより強化して取組む必要があることについて、何かしらの方向で検討して頂きたい。
- ・ 39 ページの「温室効果ガス排出量の削減目標の達成状況」について、「一方で」以降の表現に混乱した。望ましくない結果であるので、「効果を発揮し」という表現は適切でないのではないかと。
- ・ 52 ページの「スマートコミュニティの推進」の個別施策(28)水素エネルギーの利活用推進について、施策の背景を教えてください。水素エネルギーについて、世界的にはグレー水素(天然ガスや石炭などの化石燃料を利用して生成される水素)がほとんどであり、脱炭素社会を目指しての利活用促進は現状の施策としてあまり望ましくないと理解している。

○事務局

- ・ 41 ページについて、一人あたり、世帯あたりの排出量を見える化するということによろしいか。

○委員

- ・ ごみのところに、一人当たりの排出量の記載があるので、こちらと同様にして頂けるとわかりやすいかと思う。

○事務局

- ・ 39 ページの表現については、見直しさせて頂きたい。
- ・ 水素エネルギーについては、現状を把握させて頂き、再度検討させて頂きたい。
- ・ 42 ページの削減目標について。最終的には2050年ゼロカーボンに向けて進めていくべきことは進めていかなければいけないが、計画として策定を検討する中で2030年がわりとすぐに来てしまう。一定程度実行性がある目標を持つことで、ロードマップ的な意味合いの達成目標としての側面も必要ではないかと考えている。この場ですぐご回答できない状況ではあるが、検討を続けていきたい。

○部会長代理

- ・ 52 ページの水素エネルギー利活用推進について、2030年前後の段階では、確かに実用化は難しく結果を出せないと思う。2050年を見据えた一つの道筋としての施策であればよいのだが、その辺は、現実的に実現可能か、または適切かを再度検討されたほうがよい。

○事務局

- ・ 北区基本計画2020のなかで、「水素ステーションの設置」について示しているものの、現実として設置の適地等について課題がでてきているため、上位計画含めて検討していきたい。

○委員

- ・ 区としての施策が48~53ページまで38項目ある。54ページの「5 区民・事業者の取組み」では、5項目になっている。せっかく38項目も掲げているのに、縮小された印象をうける。区の施策項目ごとに、家庭の取組みと事業者の取組みを示した方が、区民にとっても事業者にとってもわかりやすいのではないかと。

○事務局

- ・ 本日お示しした資料については、区としてできるかもしれない施策についてこの場で議論してもらう目的で、一次的に掲載しているが、最終的な計画には38項目すべてを掲載する予定ではないため、ご懸念される見え方がないようになると思う。現時点では大きなものから小さなものまで掲載しているが、ご意見を踏まえ、優先順位を付けたうえで特に力をいれて進める施策を抽出していくということで、ご理解いただ

きたい。

○委員

- ・意図はわかった。とはいえ、ここに38項目あり取捨選択するにしても、ある程度の項目が残ってくる。その項目に対して、区民や事業者が取り組みたくなるような表示の仕方がいいのではないか。すでに記載された5つの項目、この結論ありきではなく、これから選定していく項目に区民や事業者のやるべきことが組み込まれた形式のほうが、ロードマップやプロセスを感じられ、区民にとってはありがたいと感じた。

○事務局

- ・区民や事業者が主体的に取り組んで頂けるように、またそのきっかけとなる計画とするために、表現方法や見せ方の工夫、仕掛けが重要と思っているので、計画をブラッシュアップしていきたい。引き続きご意見頂きたい。

○部会長代理

- ・「区民、事業者の取組み」の表現について、同様の意見で、取扱いが小さいように感じる。ただ、区の個別施策を確認すると、情報提供や啓発の施策が比較的多い。では、その情報提供等を受けて、誰が実行して削減につなげるのかということ、区民、事業者である。区の施策はあくまでも、区民や事業者がどのような行動をとるべきか、その決断の支援である。50%削減やカーボンニュートラルの実現と考えたときに、誰が主役になって取り組むのかという重みがしっかり伝わるように、構成を工夫してほしい。
- ・42 ページの温室効果ガス排出削減目標について。50%削減やカーボンニュートラルの実現を考える上で、青色で表現された部分は、電力排出係数の改善なので、国全体として電力会社が主体となり努力した結果である。一方で、区として区民や事業者が努力して結果につなげていく、実現していくという視点から考えると、グラフ中の黄緑とピンクの部分が重要になってくる。ただし、高いお金を払ってでも、区民や事業者が再エネ電力を積極的に選択利用した場合も、青色部分に計上されてしまう。実際は、区民や事業者の努力の結果であるから、区の成果として何らかの形で計上できるよう工夫できないか。

○事務局

- ・脱炭素について、見えにくいという課題がある。様々な切り口で取り組まないと目標達成は難しいと実感している。区民・事業者が主体的に取り組むための仕掛けづくり、そのための見える化は必要と思う。また、啓発活動だけではなく、如何にインセンティブを与えるかについても重要と考えている。ただし、区のみでは実現が難しく、東京都では一戸建てには太陽光発電をといった施策も検討中と聞いているので、連携していきたい。加えて、事業者との連携、地域全体のまちづくりを通じた情報共有も重要。SDGs同様、脱炭素は社会的課題として様々な部分に関係しているので、庁内でも連携しながら具体的な策を進めていきたい。

○委員

- ・資料にある施策は、基本的に網羅されていると思う。では、それを具体的にどうやって進めていくか。中小企業については、やらなくとも罰則も義務もない。施策を推進するには、他の施策と同様に、区民なら町会と連携する、事業者なら事業者団体や商工会議所などと連携していくことをもっと明確にした方がよい。それがないと、お題目だけとなって終わってしまう。賃貸マンション事業を通じて感じるのは、「環境」や「省エネ」のマンションを建てても全く訴求力がない。「地球環境のために」といったところで全くであり、「電気代が減る」と謳っても、結局は家賃がその分高くなるので選ばれないというのが、現実である。こういった会議に参加して勉強させてもらい、重要性を認識できたが、このような思考は極めて少数なんだということ認識して、どのように表現すべきかを考えるべきと感じた。
- ・世界全体、日本全体というスケールで考え、その中で北区として何ができるのかを考えたときに、個人的

に意外に大事だなと思うのは、自治体連携による森林整備の取組みである。カーボンオフセット等を利用して、北区が主体的に、仲立ちになって取組めないかと思った。森林整備は脱炭素だけでなく、海や資源を豊かにするなど、影響の裾野が広いが整備をしないとどんどん悪化してしまう事業と思っている。例えば、他地域のふるさと納税との連携であったり、事業税をプラスして払ったらそれがカーボンオフセットになるなど、具体的な事業展開がないと区民や事業者も、なかなか行動につながらないのではないかと。インセンティブという、補助金を出すイメージだが、税金であれば、区としても関与できる部分があると思うので、そういったところの施策があればよいのではないかと思った。

○事務局

・森林整備に関連して、森林環境譲与税を区でも頂いている。そのなかで区有施設の木質化をはかっているが、これからの世代のための森林の整備、森林の成り立ち、森林と海のつながり、など区の次世代の皆さんに知って頂くという意味で、脱炭素だけでなく、環境基本計画として一つの事業として取り上げていきたいと考えている。

○部会長代理

・ここ5年のうちに世界中で、集中豪雨が降り洪水が起こる等、異常気象が年々深刻化している。あるいは山火事や竜巻、強力な台風等、地球温暖化で単純に気温があがるだけでなく、地球全体の気象システムが変わってきており、様々な災害を引き起こしている。では、北区として、どういう災害が起こる可能性があるのか、それを防ぐために何ができるのかを真剣に考える必要がある。これは、命を守ることにもつながるということを自覚し、今から取組むべきことを明確に訴求すべき。もちろん気候変動への適応策にはなるが、命を守るという観点からは必然であり深く考えるべき。「そもそもなぜこのようなことが起こるのか?」「人間の経済活動によって温室効果ガスが増えているからだ」「自分の命を守るためには、根本を絶たないといけない」という危機感の喚起につなげて、「今から必死に取り組まないといけない」という思考を描いたほうがよい。1960年代～70年代の公害問題の時は、「こんな状態では生きていけない」と住民運動が起きて公害対策が始まった。これと同様に、自分にどのような影響があるかを深く認識させたうえで自発的な取組みを誘発させるような、計画づくりへの工夫が必要かと思う。

○事務局

・ご意見のとおり、最終的には、地球温暖化問題を自分事に認識してもらえそうなストーリーを考えながら計画作成に努めたい。

○委員

・全体的に充実した施策メニューを揃えられて、ち密に削減目標の数値を積み上げられているという印象。事務事業編を策定されると思うが、こちらの計画にも公共施設の現時点の排出量と削減方針を掲載したほうがよいのではないかと思った。今は49ページの「北区役所における事務の省エネ」など、施策を分散して掲載しているようだが、区役所としてある程度責任もって取組むべき事項であるので、まとまった柱をつくって掲載してもいいのではないかと。

○事務局

・第5次の計画（事務事業編）があり、今年度末で期間が終了する。来年度からの計画を、今まさに庁内で検討を始めるところで、環境基本計画と並行して策定を進めていく状況。タイミングにもよるが、環境基本計画の方にも明示できるように整理したい。

○委員

・可能な限り、概要を示して頂きたい。
・温室効果ガス削減目標、エネルギー消費量削減目標、再生可能エネルギー導入目標を掲げられている。42

ページには、現状値など実績も掲載されているが、この数値は区独自で把握している数値か、それともオール東京など他の団体で活用しているデータか確認したい。今後 2030、2050 年に向けて排出量の目標を管理していくうえで、他の団体が継続的に数値を計測するとは限らないので、基礎データとして活用する分にはよいと思うが、数字が使えなくなった場合にでも、区として自ら確認できるか、自己管理できるかを確認しておきたい。算定できなくなったでは困る。あるべき姿は、実績値が把握でき、進行管理のために連続して数値を把握できる状態。

- ・基本施策 2 の気候変動適応策について、①自然災害対策、②健康被害対策（暑熱対策）、③区民生活への影響対策に絞って取り組まれる点はよいと思う。区民の命や財産を守ることが気候変動適応の基本姿勢となるので、災害分野における公共施設や地域の中での脆弱性を意識して頂きたい。まずどういうところが弱いか、たとえば暑熱対策であれば熱中症弱者にあたる高齢者や幼児にどのような対策が必要かなど、メリハリのある対策ができればと思う。重点施策を整理する上で、考慮頂きたい。

○事務局

- ・実績値について、オール東京という形で、都内自治体が数値を持ち寄って、毎年度温室効果ガスの排出量等を把握している。様々な数値を算定に利用していることから、なかなかすぐに数値がでないため、例年 2 年遅れの数値となるが、そのようなものを活用しながら管理していきたい。
- ・ご意見いただいた通り、重点施策を考えるうえで、メリハリもって対応したいと思う。たとえば、例示頂いた暑熱対策であれば、高齢者や幼児などの対策となり、福祉部署も関与していくため、横断的に協議しながら検討を進めていきたい。

○部会長代理

- ・気候変動適応策について、洪水と暑熱はあるが、気候変動に関連してほかに取り上げるべき災害はないか。たとえば、渇水や竜巻・強風など、もう少し幅を拡げてはどうか。
- ・基本目標 1 の内容と、基本目標 2 「(3) ③災害に強く、住み続けられるまちづくりの推進」のところが、うまく連携して、全体として頑張っていくようなメッセージが伝わるような工夫はできないか。

○事務局

- ・渇水対策について、生活上の支障が久しく起こっていないこともあり忘れがちだが、今後発生する可能性もあるので、事前災害のひとつとして検討材料としたい。

○委員

- ・気候変動適応と災害については、55 ページに対策や動向を全体の話として載せて頂いている。おそらくこの中から、北区の皆さんにとって大きく関係してくる事項を熱中症予防や暑熱対策などの個別施策として抽出し、区民の取組みがどのようなまちづくりに生きていくかを整理し表現いただいたと解釈している。それぞれの個別施策として作りこんだ故に、関連性が見えなくなり個別に見えてしまっていると感じた。エネルギーを大事に使うことが、気候変動の緩和につながっているという部分を、上手く伝えて頂ければよいと思う。事業者としても、家庭の太陽光発電をそのまま車の蓄電池に溜めて、万が一の場合には、生活維持のために最低限の電源として活用してもらおうというような、防災と温暖化対策を一緒に解決していく手法を検討し提案しているところ。これまでの暮らしを維持しながら、気候対策にも適応していくといった新しい暮らし方の提案につなげていくといった意味でも、具体的な施策の提案に努めたい。
- ・データの取り扱いについては、現在電力システムのビッグデータの取扱ルールについて検討している状況。直接的に省エネのお役に立てる情報など新しい提案が出来るようになれば、情報提供させて頂く。電気を使うことが悪というイメージが出てしまうが、まずは省エネに取り組んでもらう、次に CO₂ を排出するエネルギーから電化してもらい、そして、再生可能エネルギーに切り替えてもらおうといった 3 つのステップ

を提案しているところ。業界として、再生可能エネルギーの準備が足りてないという弱みもあるが、今後増えるよう努める。暮らしを悪くしない中での省エネ活動や、エネルギーの仕組みを知って頂いたうえで、次の時代に進んでいければと考えている。各セクションに掲載された環境教育や基本目標5の環境活動の楽しさを発信するといった趣旨のところについて、どこに掲載すべきかという点は悩ましいが、そういったところで協力していきたい。

○事務局

- ・計画の構成としてどう伝えていけばいいのかという点について本会議を通じて感じているところ。できる限り伝わり易さなどを検討していきたい。

○委員

- ・48ページから64ページまで個別施策が網羅的にバランスよく並んでいるかと思う。では、どういったところを重点的にというところで、大事なのは54ページ、64ページなどの区民、事業者の取組み、それに加えて公共施設の取組みの部分になるだろう。それぞれが実際に取り組むうえで、どの取組みを直接的に支援する施策なのか、その関係性がわかるような列を、個別施策に設けて頂きたい。また、区民と事業者の取組みの記載の方にも、逆引きみたいな形で、個別施策との関連性がわかるようにして頂きたい。そうすると、「取組み」が主流となるのではないか。

○事務局

- ・施策を大小含め160位あげたことで、計画全体像が見えづらくなったと感じている。体系的には、基本目標1～4が相互に関係しながらも、基本目標5が下支えとなって取組みを推進していくといったところを、いかにわかりやすく伝えていけるか検討する。また、区民・事業者の具体的な取組みと、区の施策がどのように関連していくのかのわかりやすさを工夫することで、本日の議論が生きてくると思っている。

○委員

- ・基本目標5の「環境活動の楽しさ」という表現があり、ここで想像するのは基本的に子どもかなと思う。先ほどの委員の方の話では、公害問題の際には危機感を持って取り組むことで解決につながったというもので、確かに青い空を取り戻すなど良いイメージがあったが、今回の気候変動問題については、どのような良いイメージを持てばよいか。何か子どもたちが良い未来に向かっていけるような、これをやればこういうことが待ってるよ、という未来が提示できればいいのかなと思った。

○事務局

- ・地球環境問題について、気候変動については第6次の報告書もそろいつつあり、一步進んだ予測が出されるようだ。このように、未来についてはこれまでの経験をもとに予測ができるようになってきている。その力を将来の世代に、こういうふうになればいい方向に向かった、自分たちにとって住みよい環境になっていくというものを、環境教育のなかで次世代に伝えていけるような事業を考えていきたい。

○委員

- ・76ページの基本施策(5)について、可燃ごみもしくは不燃ごみに資源化可能物が何%含まれているか記載がある。では、これをきちんと分別した場合にどれだけCO₂排出量が減るのか数値を示してほしい。何をしたら具体的にどれくらいの排出量や消費量が減るのかを示していただけると区民の方もわかりやすい。
- ・80ページの事業者の取組みについて、事業系ごみが6割を占めると思うので、削減目標や削減量などはどのようなになっているのか。先ほどの区民と同様に、具体的な削減目標を出して頂けるとよろしいのかなと思った。

- ・これに関連して、施策に限らず条例の整備も併せて検討して頂ければ。横浜市などは分別不適物を出している市民に過料を科す取組みによって削減効果が出ていたり、プラスチックごみなどは各国先進事例も出てきているところなので、CO₂排出量の削減に向けて、そういった一歩踏み込んだ政策の検討をお願いしたい。

○事務局

- ・資源循環推進審議会でも議論を進めている。可燃ごみ減らすことでどれくらいエネルギーが減っていくのかについては、見せていくことで取組みが加速すると思っているので、できるかぎり示していければ。

○部会長代理

- ・温暖化問題だけでなく、もっといろいろな問題を取りあげて、全体をまとめていくという認識。

○委員

- ・基本目標1「気候変動に適応し脱炭素を実現するまち」について、順番を入れ替えたほうが良いのではないか。ゼロカーボンシティ宣言をして、脱炭素を優先していくのが区の姿勢と思うので、まずは脱炭素を実現し、そのうえで気候変動に適応していくので、緩和策が先にくるのかと思った。

○委員

- ・せっかく大学生の委員が出席されているので、何か一言ずつ意見いただければ。あるいは、2030年ならどういう未来が待っていると思うか聞いてみたい。

○委員

- ・若い人に興味をもってもらうことが重要と思う。なぜ脱炭素や環境が話題に上がらないのかと考えたときに、環境の情報を目にする機会がないのではないか。これからどうやって解決するのかを考えたときに、選べる取組みがないと厳しいと感じた。ただ目標があるだけではなく、若い人をどうやって行動に結びつけられるのが課題だと思う。たとえば、アプリがあるとよいのではないか。エコ活動のポイントや、環境のイベント情報や記事など、アプリのなかで情報が集約されているといいなと思った。

○委員

- ・50ページの北とぴあについて。エネルギー消費が大きい施設として記載があり、節電に取り組まれていることがうかがえるが、実際使ってみて薄暗い印象があり、人が集う場所ではないのかなと感じた。節電も大事だが、空間としての価値も大事かと思った。
- ・基本目標5について、伝えられる側の立場として、今日の会議でいえば、使っていない空間の照明を消してみても、そういう細かい配慮を目の当たりにすれば、自分たちに伝わってくるし、そのような配慮が人の取り組みや学びにつながるのではないかと思った。

○委員

- ・区民や施策をつなげること。興味のない人は施策を知ろうともしないので伝えるのが大事。自分が何をしたらどれくらいCO₂削減できるのか、可視化できることで、削減量が増えていくのがわかるといいと思った。30年後どうなんだというのは、今が当たり前にあることのように考えたことなかった。若い世代にもっと問題意識を持てるようになってほしいと思った。

○事務局

- ・脱炭素について、少し理念的な部分があると感じていて、それ自体に固執してしまうとかえって難しくなることもあるかなと感じた。どのように伝えるか、あらゆる場面で一人一人の行動が脱炭素につながることや、ご意見頂いた照明が暗いということがなぜそうなっているのか、また、区役所は再エネ100%に切り替えたが多くの皆様に伝わっていない。それをどのように伝えていくのかなど、きちんと伝えていければと思った。

○部会長代理

- ・本日の意見を踏まえて、重点施策の検討をお願いしたい。

○事務局

- ・本日の検討内容については、もう一つの部会の検討結果と併せて、5月30日の環境審議会で共有したのち、8月頃に再度専門部会を開催し、パブリックコメント前の最終的な案としてお示ししていきたい。

3. 閉会

以上